



① 被災前の田老地区の状況。

左上方が中心集落で、2線堤によって守られています。1960年のチリ地震津波からの復興で、整然とした道路網が整備されています。

右上方が野原地区で、防潮堤整備後の1線堤と2線堤防に囲まれた地区に建物が広がりました。

左下が向山地区で、1線堤と2線堤防に囲まれた地区に建物が建ち始めています。

集落の北側、高台に小集落がありますが、過去の津波で高台移転したものだそうです。



② 野原地区長内川の水門。

田老漁港側の橋桁が飛ばされています。

水門の上屋があったと思われるのですが、跡形もありません。



③ 同上。

手前は、飛ばされた防潮堤コンクリート塊を破碎処理したのと思われます。



④ 同上

水門に接続した防潮堤が飛ばされています。

基礎コンクリートは残っています。



⑤ 水門の背面です。

ゲートが閉まったままのため、ダムになっています。



⑥ 水門から東に伸びていたはずの1線堤が破壊されています。



⑦ その背後にあったはずの野原地区の集落が全壊しています。



⑧ 野原地区・長内川左岸の集落があったところです。



⑨ その東側です。
たろう観光ホテルのビルが残っているように見えます。



⑩ 1線堤の背面です。
コンクリートが飛んでいます
が、不思議なことに「アンコ」の
土砂が残っています。



⑪ 同上



⑫ 田老漁港側です。
陸閘の扉体は、引き波で開いて
しまったそうです。



⑬ 田老漁港加工場です。

鉄骨が一様に陸側に倒されており、押し波で倒壊したのがわかります。



⑭ 向山地区の1線堤は健在でした。



⑮ 野原地区背後の山です。標高は50mくらいまでで、造成は可能と思われます。



⑩ たろう観光ホテルです。

遠目には健全に見えますが、3階まで潮が入り、鉄骨が剥き出しになっています。



⑪ 中心集落背後の山です。標高は100mくらいで、造成はかなり難しそうです。

瓦礫はだいぶ処理されています。



⑫ 同上



⑲ 中心集落内の国道45号です。
道路は壊れていませんでした。



⑳ 2階以上は健在と見えます。
野原地区の観光ホテルとは様子が違います。背後の2線堤の効果と思われます。



㉑ 2線堤の背面です。
2線堤はすべて健在でした。
ただし、門扉は引き波ですべて開いてしまったそうです。建物の破壊に影響したと思われる反面、海水が早く引いて、湖状態にならないですんだとの見方もあるようです。門扉を閉めようとして犠牲になられた消防団員もおられたということで、復旧の設計にあたって十分な検討が必要と感じました。